

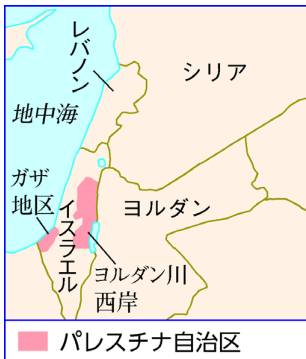
戦争のない世界へ



イスラエルの攻撃で殺された家族の葬儀で嘆き悲しむ女性たち。2024年12月16日、ガザ地区南部ハンユニスのナセル病院で (提供: ロイター/アフロ)

# 中東 拡大する戦火を止めるため 「国際法守れ」の声を大きく

東京大学名誉教授 長沢 栄治



2023年10月に始まるイスラエルの報復攻撃によって、ガザでの死者数は保健当局の発表によれば1年間で4

## 自分事として 声を上げる

「ジェノサイドやめよ」「ただちに停戦を」各国の市民による抗議行動や、国連をはじめ国際社会の批判が高まる中、パレスチナ・ガザへの無差別大規模攻撃を続け、レバノンやシリアへの空爆など戦争を拡大するイスラエル。今の事態をどうみるべきか、危機を止めるために何をすべきか、東京大学名誉教授の長沢栄治さんに寄稿してもらいました。

万を超えたという。しかし実際に、瓦礫に埋もれている遺体や関連死を含めると18万人以上(ガザの総人口230万人の8%)に及ぶとの推計もある。

このような悲惨な事態に対し、世界中でまた日本でも多くの市民が、抗議の声を上げている。中東研究者有志は、即時停戦と日本政府の対応を求めるアピールを発し、多くの市民から賛同を得た(左参照)。ここに3回目のアピールには、360を超えるコメントが寄せられた。その一つに次のような意見があった。

◆中東研究者有志が2024年11月、「ガザ危機の深刻化とイスラエルによる戦争拡大を憂慮し、日本政府および国際社会に行動を求める声明」(第三報)を呼びかけ、1347人が賛同(2024年12月10日現在) <https://sites.google.com/view/meresearchersgaza>

「ユダヤの人たちが、自分たちがやられて嫌だったことをパレスチナの人たちにおこなうのは、いじめの観点から許せないし、子どもたちに説明がつかません」。書かれたのは、お子さんをお持ちの女性の方かもしれない。身近な自分事の問題として受け止めた真摯な意見であり、鋭い論

点を含んでいる。

## パレスチナ人

### 「いじめ」の構造

国際社会を教室に例えれば、イスラエルによるパレスチナ人への「いじめ」は、スクールカーストならぬ「国際社会カースト」の構造に支えられている。生徒たちの中のいわゆる「一軍」であるG7

がイスラエルの「自衛権」を支持し、その頂点に立つ国が武器の供与や国連安保理決議への拒否権を行使して「いじめ」に加担している。日本はG7の中のおとなしい優等生として、グローバルサウス(※)の国々の「いじめ」を非難する声に直面し、問題への向き合い方を問われている。さて米国は、公正な国際秩序の実現を目指すという覇権国としての自負からすれば、国際社会という教室の「先生」といふべき存在かもしれない。だとするなら、その中東政策は、学級担任によるいじめへの加担に似ているとは言えないか。中東の戦火を止めるには、「いじめ」をおこなう生徒の反省とともに、「教師」自身も身を正し、さらに国際社会の構造も根本的に変わらなければならない。

紹介した意見でもう一つ気をつけた点は、ユダヤ人が被った「いじめ」の連鎖の問題である。イスラエルは、よく誤解されているが、ホロコーストの犠牲者が作った国ではない。ヨーロッパからのユダヤ人の移送でナチス・ドイツと協力したシオニストが、アラブ人の先祖伝来の土地を

奪って作った国であり、その民族浄化は今も飽くことなく続いている。ガザや西岸で続く民族浄化は、国際法違反の占領政策によって支えられている。中東で続く戦火は、暴力や報復の連鎖ではなく、国際法の無視という不公正に起因するものである。

## 市民の理性の 声を大きく

「自衛権」の名の下に、レバノンやシリアなどへの攻撃を拡大するイスラエルは、赤信号を無視し次々に交差点に猛スピードで突っ込んでいく車に似ている。交通規則にせよ国際法にせよ、ルールは誰のためにあるのか、といえば、自身を守るためにある。そうした市民の理性的な声が世界に届かないと、やがて国際社会は「学級崩壊」状態に陥るであろう。

現在ガザやヨルダン川西岸、レバノン等で進行中の事態に対し、これを放置・黙認している国際社会には重大な責任がある。私たち中東研究者は日本および世界の市民と連帯・協力して、一刻も早く流血を止め、人間性の回復、公正な平和の実現のために力を尽くしたい。

※グローバルサウス：南半球に位置するアジアやアフリカ、中南米などの新興国や途上国の総称

ながさわえいじ 信州イスラム世界勉強会代表、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロ1、東京大学名誉教授。専攻は中東地域研究、近代エジプト社会経済史。ガザの事態を憂慮し、即時停戦と人道支援を訴える中東研究者のアピール呼びかけ人。

